

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	大津市立和邇小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	わにっ子防災リーダーになろう
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1. 対象者 6年児童 77名</p> <p>2. 教科 社会科、総合的な学習の時間</p> <p>3. ねらい</p> <p>今日的課題である防災学習に、子どもたちが実際に体験することで学び、考え、主体的に自分事として捉えることを目指したい。災害について現存する課題に問題意識を持ち、調べ、考え、企画・発信する取り組みを通して、学習指導要領に示された主体的・対話的な深い学びにつなげていきたい。</p> <p>4. 活動の特色</p> <p>子どもたちは、自然災害についての知識はあるが、「自分とは関係ない」という考えの児童が多く、「防災」という意識は希薄である。この取組は、すべての活動が、「体験」を伴うものであり、実際にやってみることで、その難しさや新たな課題が見つかり、課題解決にむけての工夫を考えていくところが特徴である。また、6年生が、よい経験をして、それが周囲に伝わらなければ、広がりは見られない。地域防災の皆様から教わったことを、今度は下級生や地域に発信することで、学習内容はいっそう深いものとなる。</p> <p>5. 活動内容</p> <p>1学期＜災害について学ぶ＞</p> <p>5月25日 防災とは（自主防災会、災害についての調べ学習）</p> <p>6月20日 調べ学習発表会（参観日に保護者へ）</p> <p>7月18日 和邇防災でハザードマップや災害時の行動を調べる（自主防災会）</p> <p>2学期＜体験を通して学ぶ＞</p> <p>9月13日 防災教室（大阪ガス）、防災グッズ（新聞紙の皿とスリッパ）づくり</p> <p>10月 6日 ロープワーク</p> <p>11月 1日 修学旅行（講話学習）阪神淡路大震災の取組、北淡震災記念館見学、語り部学習</p> <p>11月 9日 避難所体験（体育館）</p> <p>ダンボールパーテーション、ダンボールベッド、簡易テント</p> <p>11月24日 防災親子講演会：「あきらめない練習、希望と夢を語る」</p> <p>11月29日 ブルーシートテント体験（運動場）</p> <p>自主防災会、保護者とともにブルーシートテントを立てる。ロープワーク活用</p> <p>12月 2日 親子防災キャンプ（宿泊、地区消防、防災会、自治連合会）</p> <p>12月12日 かまど体験（中庭）かまどベンチで炊き出し体験</p> <p>薪で火起こし、鍋でお湯を沸かす、スープ作り、お茶作り</p>	

3学期<周囲に人へ発信>

- 1月18日 防災イベントの企画、グループ分け、テーマ別準備
- 2月 1日 防災イベントの開催（下学年にイベント）（なぜ防災が必要なのか）
- 5日 防災イベント（保護者）イベントのプレゼン（何を学んできたのか）
- 8日 防災イベント ブースごとに説明、来客の体験、動画視聴
- 2月20日 1年間のまとめ（いざという時の行動指針）

6. 活動の実際

○避難所体験：ブルーシートテント、ダンボールベッド・パーテーション



運動場に、ブルーシートテントを張った。自主防災会の協力のもと、張り方を教えてもらい、以前学習したロープワークを使いこなして完成した。また、体育館において、ダンボールベッドの組み立てを体験した。うまく組み立てられずに、みんなで協力して実施した。さらにダンボールパーテーションをつなぎ合わせ、プライバシー保護の観点について理解できた。

○親子防災キャンプ（1泊2日）：かまど体験、簡易テント、親子防災講演会



かまどベンチを使用して、実際に炊き出しの練習をした。思うように火がつかず苦労した。出来上がったカレーは実に美味しいものであった。ダンボールパーテーション、ダンボールベッドの他、冬の宿泊として、簡易テントを組み立て使用した。親子講演会では、防災の考えや、地域や家族ぐるみで防災を学ぶことの大切さを知ることができた。

○防災イベント：下学年へ、上学年へ、保護者へ、地域へ。



自分たちが学んできたことを、工夫をしましてまとめ、下学年向け、上学年向け、保護者や地域向けにプレゼンテーションやビデオにして発表した。人にうまく伝えるためにはどうすれば良いかということを考える機会は、自分の学びの振り返りでもあり、いざという時の行動指針を考えるきっかけにもなった。

7. 活動の成果と課題

【成果】 学習内容の系統性や関連性を考えた年間指導計画を基に学習を展開することで、防災に対する正しい知識・技能を身に付けさせることができた。また、指導者がゴール（子どもたちにつけた力）を意識して学習計画を組み立てることにより、子どもたちの学習への意欲を向上させることができた。机上での学びから、実体験への学びに切り替えることにより、頭での理解に留まることなく、経験値からくる自信へとつなげることができた。応用もきくようになった。

【課題】 持続性を考えた年間指導計画の修正や見直しを行うことで、受け持ちが代わる中でも、系統立てて実施できるように配慮する必要がある。地域での避難訓練と、学校での取り組みを結びつけることが必要である。体験に必要な機材（ダンボールパーテーション、ブルーシートテント、かまどと薪など）を毎年調達し、学習体系化して持続可能なように予算化していく必要がある。